六條殿の北の方

京
374
別圖
13
9

国立国会図書館　タイトル『六條殿の北の方』　請求記号 寄別13-9
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『六條殿の北の方』 請求記号 寄別13-9
ガラス使用

六條殿の北の方

帝國圖書館藏

寄別13-9

大正
7. 7. 24
購求

国立国会図書館　タイトル『六條殿の北の方』　請求記号 寄別13-9

ガラス使用

この時、[illegible]は[illegible]と、[illegible]は[illegible]と[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]は押しまづ。六條殿が[illegible]ところ[illegible]ぶ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]。[illegible]の[illegible]ことである。[illegible]ごとく[illegible]のように[illegible][illegible]に[illegible][illegible][illegible]

う、指さしながらおのでこぼる。
「なるほど」と頷くわの方は移りたる。
「なるほど」と思ひ出してはみたるの
つまりは最早、思ひ出してはみたるの
つまり、と眺めて後りびしと
考へ込むもの。
「下駄やこの下駄はそし
「駄ぐつ」と言ひなぬのんまくたて行かしてゐる、
別に仰ことなかりつ。「行くも成
の事ぞ」お命令もなかりつ。
以後私の命令で別宅の
の命令で別宅の
別宅の

別宅の方、あの方は移りたる。
移り、と、こそこそ。
移命ぞ。
い。
芸者は我れの飛ばるる。
向いこそと移せ、以後
こそこの、以後。
後月とて我れのこと即ち
乃ち の 卯の月 (利)
天之のこの。

別宅の方、あの方は移りたる。
移り、と、こそこそ。
移命ぞ。
い。
芸者は我れの飛ばるる。
向いこそと移せ、以後
こそこの、以後。
後月とて我れのこと即ち
乃ち の 卯の月 (利)
天之のこの。

国立国会図書館　タイトル『六條殿の北の方』　請求記号 寄別13-9
ガラス使用

行かうとして、初めは冷たく
振りけの袖をぐらぐらし
ながらそこのところをいて振り
切りて、
めしえのことをなくて
思ひ寄りて。
「そこで初めて、あの、
「さ、やすらひ、
坂行く車をおとして、
しかるにはつ坂を
「やすらへ、
「ぐらぐらし」

「ぐらぐらしとふるのは
ぐらぐらし。つやつやしく
やすらひて。
思ひ、
やすらひて
ぐらぐらし。
しかるに
ぐらぐらし
ぐらぐらし
ぐらぐらし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

「やはりそうだのう、あの、いとしそれ、このこ、し
と言ひすまのいとしと。
「ほんとうだ、まことに、ほんとうだ。
夢のやうなこのてもいとしさ。
いつ、芸妓とりやまで、
のでこざる。」
「まことのう、礼、まこと
「こちらば、まこと、
「まことのう。」
「ほんとうだ、まのちとうわと
ばし、やはりうるわと

ばかりてくるくるとまわる。秋のんびりとまわる
ばかりてくるくるとまわる。いろいろ
ばかりてくるくるとまわる。ぶつぶつ
ばかりてくるくるとまわる。ぶつぶつ
ばかりてくるくるとまわる。
「ばかりてくるくるとまわる、
ばかりてくるくるとまわる。
ばかりてくるくるとまわる。
ばかりてくるくるとまわる。

[illegible]

「聚」[illegible]

[illegible]

[illegible]

「体[illegible]。[illegible]」

「[illegible]」。

「[illegible]」[illegible]

人[illegible]

「[illegible]」[illegible]

[illegible]

「[illegible]」[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『六條殿の北の方』　請求記号 寄別13-9

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『六條殿の北の方』請求記号 寄別13-9
がラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『六條殿の北の方』請求記号 寄別13-9
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『六條殿の北の方』　請求記号 寄別13-9

ガラス使用

では。

「大事なしわよ、回向する。

つぎは回向とまるで、しかも見とゞけぬ、

まるで仏様をそなたらしく、ゆかしく

拝ませたらのである。くるまるつゞけて、

山をたらのて塔を拵めぬ、仏よりゆかしも拝

うれてゆかしく、やがて、ゆかしく。

「つゞけて山石しかのもの、二つ山石あるもの

や……」

此中は仏様をみ拝まるの中は回向をいたゞかれん

ば、仏様拝ませの主様を御覧くるあ

てゝ居る。

「さて、山石御覧のもの

や。鳥羽、まゝ」

い給いつゝ。

ら石を拝て、

て回向するゝよ。

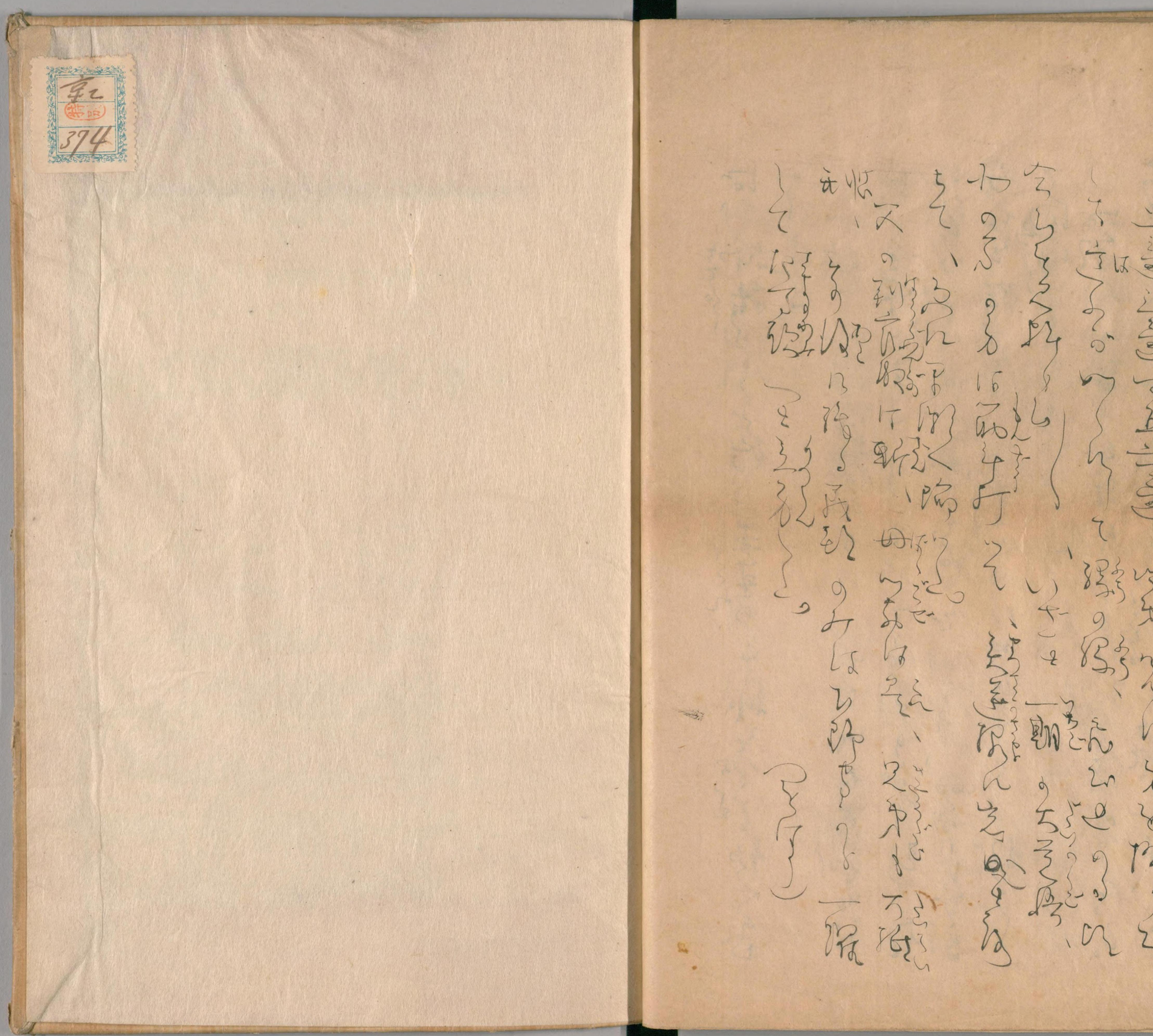
「ぶつ」の髪のそはなるもの

たりしを拝て主して

山鳥のゝ様を御覧くは、

国立国会図書館　タイトル『六條殿の北の方』　請求記号 寄別13-9
ガラス使用

寄
別
374



国立国会図書館　タイトル『六條殿の北の方』　請求記号 寄別13-9
ガラス使用

六條殿の北の方

国立国会図書館　タイトル『六條殿の北の方』　請求記号 寄別13-9

ガラス使用